教育委員会、小学校校長、養護教諭、担任教諭と連携した、学校薬剤師と薬学実務実習生による小学校での保護者参加型「くすり教室」開催促進活動

安部 恵 氏

一般社団法人松戸市薬剤師会　理事
日本大学薬学部薬剤師教育センター　准教授

要旨

わが国は超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が課題となっており、その解決に向け、セルフメディケーションの推進が求められている。また、一般用医薬品の販売制度の変更をはじめ、医薬品を取り巻く環境が大きく変化しており、生涯にわたる心身の健康の保持増進のため、薬を適正に使用するための「くすり教育」が早期から年齢に応じて行われることは大変重要である。しかし、公教育における「くすり教育」は、中学校から実施されているものの、小学校においては学習指導要領に記載がなく、その実施は学校長の判断に委ねられている。更に、その保護者も「くすり教育」を受けていない年代であり、特に子どもへの影響力が大きいことから、同時に介入が必要な対象である。

そこで、本活動では、学校薬剤師が薬学実務実習生と協同し、小学校において、児童生徒と保護者を対象とした体験型「くすり教室」を開催し、将来にわたって継続的に実施できる体制の構築、また、この取り組みを広く普及させるための活動を実施した。

1.活動の背景

日本薬剤師会学校薬剤師部会が毎年実施している全国学校保健調査によると、平成26年度中に小学校において医薬品に関する保健教育を実施した学校薬剤師は40.6%であり、そのうち純粋に医薬品を題材にしたと回答した学校薬剤師は45.3%であった。このことから、全国の小学校において学校薬剤師が医薬品についての保健教育を実施している割合は約18％と低迷していることが推察される現状である。

2.活動内容と実績

(1)　くすり教室の実施

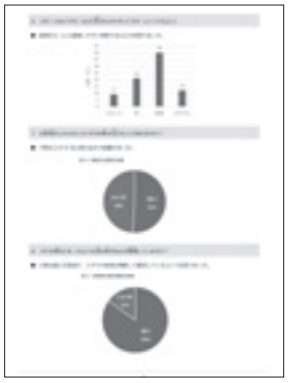
学校薬剤師が、学校薬剤師会、教育委員会、小学校校長、養護教諭、担任教諭と連携し、児童生徒のみならず、その保護者も対象とした体験型の「くすり教室」を薬学実務実習生と協同して開催した。

(2)　映像資料の作成

(1)の教室の様子を準備段階から撮影し映像資料を作成した。「くすり教室」未開催の学校薬剤師、学校保健関係者らへ提供し今後の普及活動の一助とした。

(3) 「くすり教室報告書」作成

教室の開催前後に対象者へアンケート調査を実施し、その結果を含む「くすり教室報告書」を作成した。これを教育委員会、小学校校長、養護教諭、担任教諭、対象児童家庭へ提供することでフィードバックを行った。



(4) 成果の発表

今回の教室実施に関するアンケート調査結果を含め「くすり教室の開催報告」を日本社会薬学会第36年会にて行った。

(5) 「夏休み親子くすり教室」の実施

「くすり教室」未実施の学校薬剤師の経験の場として実施した。この教室についても映像資料を作成し、行政担当者、学校関係者へ提供し、今後の普及活動の一助とした。

3.今後の展望

本活動と同時に茨城県薬剤師会学校薬剤師部会の協力を得て「小学校担当学校薬剤師のくすり教育実施状況調査」に着手しており、教室実施を阻む要因が明らかになった。今後はそれら要因の解消のための取り組みと当活動を融合させ、広く普及させるべく活動を継続していく。

これら継続した活動により国民の医薬品適正使用の知識を高め、健康寿命の延伸に貢献したい。

4.謝辞

当活動は、御財団からの研究助成なしには成し遂げられませんでした。活動途中での助成使用使途変更の申請にもご快諾いただき、今後の活動のための準備も整えさせていただきました。この度の助成に関し、誠に感謝申し上げます。